

自己の意識における地域との心理的な結びつきに関する考察

東北工業大学	学生会員	○齋藤 和希
東北工業大学	正会員	泊 尚志
東北工業大学大学院	学生会員	近石さゆり
東北工業大学	学生会員	高橋 由弥

1. はじめに

東京圏への人口集中の是正，地方創生を目的とした政策が多く行われている。国土交通省¹⁾²⁾と内閣府³⁾は地域に対する愛着や帰属意識を高めることが重要であるとして、「ふるさと」をキーワードに良好な景観づくりや，魅力的な空間づくり，ふるさと教育などの「人の地域とのつながりに関する様々な取組が行われている。また，国土交通省¹⁾によると，ライフスタイルの多様化により金銭に換算できない豊かさを求める生活志向等が実現可能となっており，最近では都市住民の間で地方での生活を望む田園回帰の意識が高まっている。

一方，既往研究に着目すると，人の地域との心理的な結びつきに関する研究として地域愛着などにかかわる知見が多く見られるが、「ふるさと」や「地元」といった自己との結びついていく地域に関する研究は農山村地域を対象にした調査や学生を対象とした教育による意識醸成に関するものが多く，「地域との心理的に結びつきに影響を与える要因」や「結びつきのある地域に対してどのような意識を持っているのか」という地域との心理的な結びつきの関係については明らかになっていない。そこで，本研究では自己の意識における地域の認識と自己の意識における地域との心理的な結びつきについて分析する。

2. 既往研究の整理と本研究の位置付け

城月⁴⁾は，「人と場所の心理的な結びつきを理解するうえでは「場所感覚」という概念が最も有用である」と示している。また，心理的な結びつきを肯定的なものとしてだけ見るべきではない。また，肯定的な影響だけを与えるものとしても見るべきではない」と考察した。Jorgensen⁵⁾は場所感覚を，物理的環境に関連した個人のアイデンティティを決定する自己の次元であり，この環境に関連した意識的・無意識的な考

え，信念，好み，感情，価値，目標，行動傾向，スキルなどの複雑なパターンによって決定される「場所アイデンティティ」，集団または個人とその環境との間に生じる肯定的な絆である「場所愛着」，居住者が自分と特定の場所との間の関連性の強さを認識することである「場所依存」の要素を含むものと示している。藤居ら⁵⁾や西上ら⁶⁾の調査では，「ふるさと」という心理的な結びつきのある地域に対して否定的な印象，感情を抱いているデータが見られた。以上のことから，心理的な結びつきのある地域に対して必ずしも肯定的な関係であるとは言えないだろう。よって，知見では心理的な結びつきを複合的な概念として示しているが，人の地域との心理的な結びつきと地域に対する意識の関係を把握することが政策と研究の両方に必要だと考える。

3. 仮説

本研究では「結びつきのある地域に対する認識」を地域に対する印象と理解の認識から分析する。自己アイデンティティの中での地域への認識を捉えるために，心理的な結びつきのある地域を「自分を最もよく表す地域」とし，心理的な結びつきは自身が対象地域に対して抱く感覚として，地域愛着と場所アイデンティティから分析を行う。

心理的な結びつきを，知見をもとに地域愛着と場所アイデンティティの2つで定義し，地域愛着は鈴木ら⁷⁾，場所アイデンティティはJorgensen⁵⁾を参考にし，調査・分析をする。本研究では次の仮説を構築した。

- A. 地域に対して肯定的な印象を持っているほど，心理的な結びつきが強くなる。
- B. 地域について理解しているという意識が，心理的な結びつきを強める

キーワード

自己の意識 地域 心理的な結びつき

連絡先

〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35 番 1 号，電話 022-305-3533

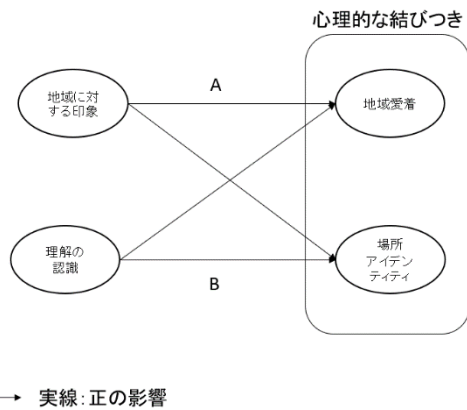


図-1 心理的結びつきに影響を与える要因についての因果構造仮説

4. 調査概要

自己の意識における地域と、地域に対する意識の関係性の把握のために WEB アンケートによる意識調査を 2022 年 1 月 18 日～同 21 日に実施した。調査項目として、自己の意識における地域の有無、地域に対する印象、その地域を選んだ理由などを主に五件法を用いて設定した。

全国の 20 歳以上の男女を調査対象に行い、回答数は 1097 件となった。しかし、自分を最もよく表す地域について「特にない・わからない」という回答が 181 件あり、自己の意識における地域がないものとして除外し、916 件のデータを用いて分析を行った。

5. 調査結果と考察

自己の意識における地域がある、と回答した 916 件のデータを用いて因果構造仮説について共分散構造分析を行った。その結果、地域を肯定的な印象で捉えていることが地域愛着と場所アイデンティティを高めることが明らかになった。地域に対する理解の認識は地域愛着と場所アイデンティティにわずかであるが影響をあたえていることが明らかになった。

このことから、地域を良いものとして認識することによって心理的な結びつきを高めることが明らかになった。今回の分析では「地域に対する肯定的な印象」と心理的な結びつきの影響について分析を行った。しかし、知見でもあるように心理的な結びつきを肯定的な面からだけ捉えるのではなく、否定的な面からの分析や肯定的・否定的問わず、地域に対する印象の強さなどの分析を行っていくことが必要である。さらに、

地域に対する印象は地域差が影響を与えていると考えられることから、項目の精査が必要である。

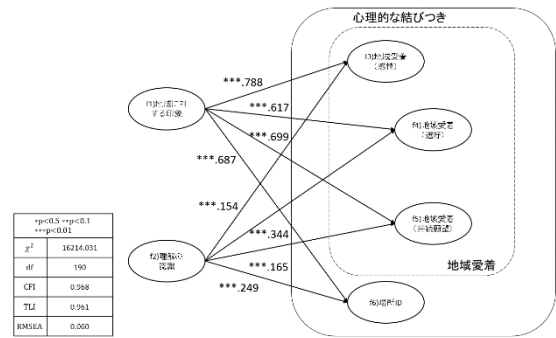


図-2 共分散構造分析の結果

参考文献

- 1) 国土交通省，国土形成計画（全国計画），最終閲覧日:2022/1/22,
- 2) 国土交通省，国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～，最終閲覧日:2022/1/22,
- 3) 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局内閣府地方創生事務局，まち・ひと・しごと創生総合戦略 2018 改訂版，最終閲覧日:2022/1/22,
- 4) 城月雅大（2018 年）：まちづくり心理学，名古屋外国語大学出版会。
Bradley S. Jorgensen (2001), Sense of Place as an attitude: Lakeshore owners attitude towards their properties Journal of Environmental Psychology・September2001
- 5) 藤居良夫・伊藤勝久・大森賢一（1993），農山村地域における居住者の景観およびふるさと意識の統計的分析―島根県八雲村における調査事例から― 農業土木学会論文集，第 164 号。
- 6) 西上広貴・上月康則・山中亮一・小野薫・平川倫（2017），ふるさとのために活動する学生の特質について～「愛着」「誇り」「避けたい」感情に着目して～，景観・デザイン研究講演集，No.13.
- 7) 鈴木春菜・藤井聡（2008），地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究，土木計画学研究・論文集，Vol.25，no.2.